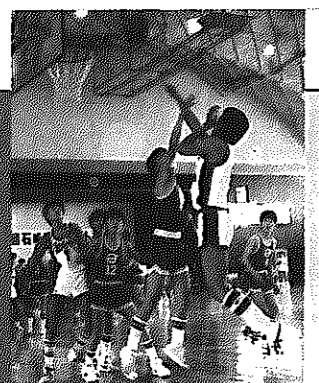


スポーツ大会結果



●石崎杯中学生バスケットボール大会  
(5月18日・白根高)  
▷男子(9チーム参加)＝①新津一中 ②黒崎中 ③燕中、岩室中  
▷女子(6チーム参加)＝①横越中 ②新津一中 ③白根一中、亀田西中

●第1回団体予選白根地区テニス大会  
(5月11日・青年教育センター)  
▷男子シングルス(24人参加)＝①柏 敏雄 ②川又誠一 ③渡辺 栄、小島正晴(以上、フレンドリー)  
▷女子シングルス(6人参加)＝①田中やよえ ②高桑由美(以上フレンドリー)

まちの話題

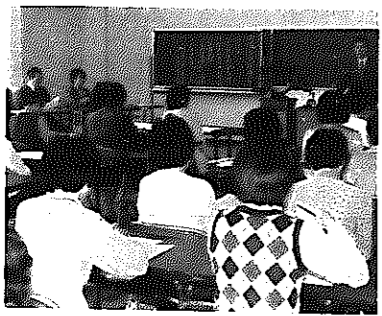
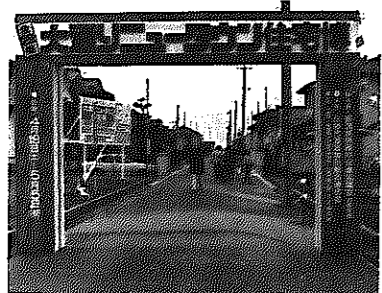


**会場いっぱいにつづりレク—成人式**  
成人式が五月三日、青年教育センターで行われ、昨年より三十一人少ない四百二十六人(男二百二十七人、女百九十九人)が新しく大人の仲間入りをしました。  
当日は、市外から帰省してきた人も含め、会場は華やかな振りそで姿でいっぱい。新人を代表して小杉 修さん(新町乙)と渡辺美幸さん(下

茨)が「一日も早く成人として認められるよう努力することを約束します」と誓いの言葉を述べました。  
なお、今年の成人式は「行政に頼らず自分たちの手づくりでやろう」と、新成人自らがレクリエーションを企画し、各地区の代表からなる実行委員会が計画を進めてきました。ゆにれつ、や青年団体もこれに協力し、式典終了後は会場をいっぱいに使って「数集まり」などのゲームを楽しみました。

**住宅博に三千五百人 予定の半分が契約済**  
四月十九日から五月五日まで、大通りニュータウンで、住宅博覧会が開かれました。これは、県産材を利用した在来工法による木造住宅の良さをPRするため、新潟県県

産材促進協議会白根支部(木川元衛支部長)が主催し、白根市建築職別組合連合会(笠井宗作会長)との共催で開催されたものです。  
期間中は、市内や三条、巻、小須戸、新津をはじめ、遠く長岡、津南、村上などから約三千五百人が訪れ、展示住宅を見学しに回る家族連れなどにぎわっていました。  
この後、同地で引き続き住宅展が六月一日まで行われ、展示された二十棟のうち、博覧会初日にさつそく一棟、申し込みがあったのをはじめ、期間中を通じて半数の契約がまとまっています。  
なお、住宅の見学は現在も受け付けています。係の人が現地を案内してくれますので、希望する人は新潟県産材促進協議会白根支部(☎71160)へご連絡ください。



**栄養教室が開講 脳卒中の減少に期待**  
本年度の栄養教室の開講式が、四月二十四日、保健センターで開かれました。  
この教室は、地域の栄養改善に役立てるため、市と新津保健所の共催で昭和四十年から開始されたもので、今回は九回目にあたります。これまでの卒業生は二百八人を数え、食生活改善推進委員として地域で活躍してきています。  
受講者は市連合保健会から選出された一般家庭の主婦で、今回は二十八人が、健康づくりのための栄養、運動、休養などについて十回にわたり、講話や実技を通して学習します。また、最近、生活の多様化で加工食品が増えてきたことから、特にこれらの安全性も追求していきます。



**第九回白根川柳大会 高橋祐四雄さんが一位**  
県内でもレベルの高い白根川柳大会が、五月十八日、産業厚生会館で開かれ、市内や佐渡、長岡などから約六十人が参加しました。市内からの参加者の成績は次のとおりで、九回のうち五回とも市内から一位を出しています。  
一位 高橋祐四雄 四位 長井徳市 五位 今井七郎 六位 織田セツ(以上、十位まで)

ネットワークの 地域づくりの 輪

能登子供育成会

子・親同士の横のつながりを強める



大風合戦を控え、大人の風作りといっしょに子供風4枚も準備される(5月18日、白根小グラウンド)

家庭や学校とともに、子供が健康に育つために欠かせないのが地域での教育。そして、その役割を直接発揮しているのが子供会活動です。  
能登子供育成会(児童数約八十人)でも、ほかの子供会と同様、親子がいっしょになって、お祭りなどへの参加や神社の草取りなど、

さまざまな活動を行っています。中でも、昨年からはじめた合宿は子供たちの人気を得ています。これは、青年教育センターに泊まり込んで花火大会や水泳、朝の散歩などを行うもので、もちろん今年も計画されています。  
田村正一会長は「いっしょに泊まることで、連帯感が深まっているようです。父兄の行事への参加は上々で、特に外から嫁いできた人など、親にとっても地域でのつながりができてよいのでは」と話しています。  
お祭りでは、子供自身が作ったみこしのほか、二年前に父兄有志から贈られた特製の手作りみこしも繰り出し、子供たちはうれしそうに担いでいます。昨年の子供大風合戦では六年ぶり三度目の優勝。そして、この三月に開かれた青少年健全育成市民会議では、優良団体として魚町親子会とともに表彰されました。

外川英幸くん (能登1・白根小6年)

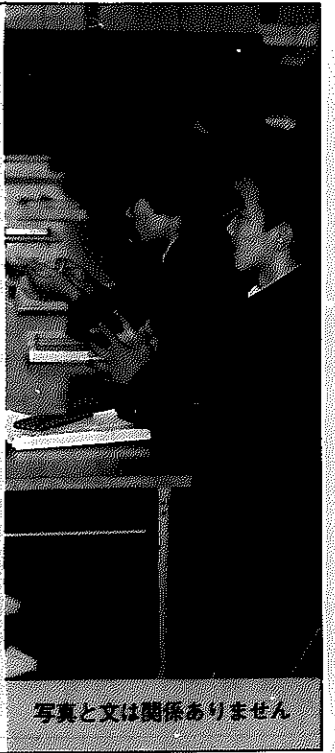
「合宿がいちばん楽しい」  
昨年の合宿は、みんなでいっしょに遊んだりできて、とても楽しかった。会の行事でいちばん気に入っています。子供大風合戦では綱を引き合うときが最高です。昨年は、これで勝てば優勝だと思いき、最後の一枚はみんな必死でがんばりました。風作りも大好きです。



定型化されたせりふ

エジプト・ナイル遺跡発掘調査で発見された中期王朝、宮廷書記の中に「このごろの若い者は……」で始まる嘆きの記録があるという。また、メソポタミアでは、くさび形文字で記された「近ごろの子供は……」と嘆く記録もあるという。  
「近ごろの生徒は……」という定型化されたせりふは、人類の歴史とともにあったようだ。しかし、この定型的せりふが持っている意味内容は、大きく変わってきていると言える。  
かつては、人生の先輩、親たちが「かくあってほしい」「努力精進してほしい」という気持ち

を込めたせりふだった。ところが最近では、期待する水準まで到達できないでいることへの不満、心配よりも「考え方、行動が理解できない」という困惑、動揺の度合いの大きさを内容とするせりふになっている。「どうしてこんなことをするのか、わからない」「なぜ、お金と計算的なことをすぐ口にするのだろうか」などだ。  
考え方、感じ方の違いは、ものの認識の違いにあると言われるが、認識の違いは積み重ねられた体験の違いから生まれてくるものだろう。  
多様な生育歴、家庭環境、そしてまた、質量ともにかつてとは比較もできない情報過多の中で成長している生徒たちである。定型化されたせりふを不用とするには、こちらが変わることだ。  
かつては今も、未来を見つめる生徒の目は変わってはいない。(庄瀬中学校にお願いしました)



写真と文は関係ありません